宇都宮市立横川中央小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「毎日，朝食を食べている」，「毎日，同じくらいの時刻に寝ている」，「毎日，同じくらいの時刻に起きている」の肯定的回答の割合は順に96.3%，87.9%，96.3%で，全国の平均を上回っている。各家庭の協力を仰ぎながら，これからも規則正しい生活の大切さを伝え，健康的な生活が送れるように指導していきたい。
○「先生は，あなたのよいところを認めてくれている」の肯定的回答は91.3%で全国を1.5ポイント上回った。また，「人の役に立つ人間になりたいと思う」は97.5%で全国を1.6ポイント上回った。今後も自己肯定感や向上心を高められるように学校教育全体を通して支援していきたい。
●「人が困っているときは，進んで助けている」の肯定的回答は88.8%で全国を2.8ポイント下回り，「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的回答は96.3%と高い回答であったが，全国を0.6ポイント下回った。「友達関係に満足している」の肯定的回答が93.9%と高いことから，相手を思いやり，正しく判断して行動しようとする素地はできていると思われる。引き続き，児童にとって学校生活が安心で学びの多い場であるよう，努力していきたい。
○「学校の授業時間以外に，普段，1日当たりどれくらいの時間，勉強するか」では，「1時間以上2時間未満」は46.9%で全国を15.4ポイント上回った。本校の6年生の約6割から7割は，毎日1時間以上の家庭学習の習慣が身に付いてきていると言える。授業で学習したことをさらに定着させ，学ぶ意欲を高められるよう，今後も家庭と連携して学力向上を目指していきたい。
○「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的回答は81.4%で，全国を23.6ポイントと大きく上回った。また，「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の肯定的回答は85.2%で全国を8.4ポイント上回った。総合的な学習で，横川地区（自分達の住む地域）の歴史について学ぶ活動を通じ，より地域のことについて学びを深めていけるよう支援していく。
●「国語の勉強は大切だと思う」，「国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思う」の肯定的回答は9割を超えているが，全国と比較すると「国語の勉強は大切だと思う」の肯定的回答は1.6ポイント下回っている。授業の工夫・改善に努め，国語を楽しく学びながら学力を高められるような指導を展開していきたい。
○算数に関する質問に対しての肯定的回答は，いずれも全国を上回った。今後も，児童の算数に関する興味・関心を高めるような授業を展開していけるように，教材研究に励んでいく。
○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の肯定的回答は100%であった。ICT機器をどの学習でどのように取り入れて行くかを精選し，学ぶ楽しさを味わいながら学力を高めていけるよう，教材研究や指導法の工夫に努めていきたい。

宇都宮市立横川中央小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習や自主学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度始めに，家庭学習に関する保護者あて通知を出し，保護者と連携をとりながら，家庭学習や自主学習への協力を呼び掛け，共通理解を図ることで，基礎・基本の着実な定着や確かな学力向上に向けた指導・支援を行っている。	「家で自分で計画を立てて勉強している」の項目の肯定的に回答した児童の割合は70.4%であった。
授業におけるめあてとまとめ・振り返りの充実	授業の最初に「本時のめあて」を提示し，最後にめあてを意識したまとめをすることで，児童一人一人が本時の学習の流れや内容を振り返り，学習内容の確認をする時間を設けている。	「5年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思う」の項目の肯定的割合は，83.9%である。
「分かる授業」「楽しい授業」の実現に向けた授業形態の工夫	本校の研究主題「主体的に，自分の考えや思いを表現し，学び合う児童の育成～個別最適な学び・協働的な学びを通して～」のもと，ICTの効果的な活用を模索しながら，児童の実態に応じて，ペア，グループ，学級全体での話合い活動など，対話的な話し合い活動を行うよう工夫す	「学級の友達との間で話し合う活動を通して，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか」の項目の肯定的割合は，87.6%である。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「今回の国語の問題では，解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について，どのように解答しましたか。」の質問に対しては，「全く回答しなかった」と答えた児童の割合は，3.8%で全国より1.7ポイント上回っている。「書くこと」の平均正答率は29.1%で，全国の平均を上回ったものの，決して高い正答率とはいえない状況である。	国語科をはじめ，各教科・領域の学習の中で，自分の意見や考えをもち，文章にまとめたり，発表や説明をしたりする機会を計画的に設ける。	書くことへの抵抗感を軽減するための取組として，国語科の学習を中心に，各教科・領域の学習の中で，内容やテーマ，字数などを決めて，自分の意見や考えを文章にまとめる機会を計画的に設けるようにする。発表や説明をしたりする学習を通して，思考力・判断力・表現力のさらなる育成を目指す。また，読書を励行することで，自分の考えをもったり，豊かにしたりする様々な知識や語彙力を身に付け，書く力の育成につなげていく。